

日本G.A.P.ニューズレター

No. 5

目 次

サイエンス・グループと金	C. A. ハニー	1
最初の因	C. A. ハニー	2
1962年2月4日の科学的状況	C. A. ハニー	4
断定的及び否定的考え方と動機	G. アダムスキ	6
質疑応答	C. A. ハニー	8
地震に関する報告	C. A. ハニー	11
私はなぜメキシコへ行くか	G. アダムスキ	12
地震と空震	C. A. ハニー	13
バンスン氏からの書簡		16
編集後記		17

この号ではアダムスキの代理人C・A・ハニー氏が各国G・A・P宛
に発行しているシコスミック・サイエンス・ニューズレターの一九
六二年三月号の内容を全訳で紹介致します。文中カッコ内の註は之係
田によります。以下の各記事は右のニューズレターに掲載されている
順序にしたがって載せました。——編者

サイレンス・グループと金

C・A・ハニー

私のニューズレターのオ一号が発行されて以来、オ一号で言及した円
盤サギ事件の關係者であるコンタクトマンの氏名を明記しなかったこ
とで私は非難を蒙っています。私が受取った或る手紙には次のように述
べてありました。「私はコスミック・サイエンス・ニューズレターに關
して読む価値があるかどうかを決めるのにはばりく躊躇しました。その
唯一の理由はあなたがかばり書きなほしたこと、特に或るコンタクトマン
の氏名を明記してはいない点にあります」

私は、法廷に持出される法的な証拠が出ない限り、サギ師だといって
人を非難するのは適當でないといふもなお考えています。この人々を明る
みに出すのは容易ですが、しかし証拠が出ない限り、それは「自分のこ
とを棚に上げて人を非難する」ように聞こえます。なぜならわれわれも
コンタクト例を主張しており、しかも人々はわれわれをサギ師だと言っ
ているからです。一般の人は他のコンタクトマンと同様に私やアダムス

キ氏をも信ずべき理由をもっていないのです。

私は宇宙人の名のもとに仕組まれている種々の企てがどんなもの
かを知らせし続けますが、それに關係ある個人の名前を明らかにする
ことはしません。この種のインチキにひっかかっている人々は、判断を
してこれ以上熱中することなしに落とし穴を避けることができるでしょう。
法廷に持出される文書による証拠が有効とすれば私はそれを掲げましょ
う。

ラインホルト・シユミットの場合においては新聞記事の資料がその
証拠となります。「新しいコンタクト」という見出しのもとに次のよう
な記事が一九六一年十一月十九日付のロサンジェルス・タイムズ紙に出
ています。

「空飛ぶ円盤の乗船者、刑務所の独房に着陸す……ベイカーズフ
ールドの元住人で宇宙船と土星人とにコンタクトしたと称するライン
ホルト・O・シユミット(六四才)は、二件のサギ罪によりオークラ
ンドで土曜日に一年から十年の刑に服するよう宣告された。シユミット
は或る六十才の未亡人を説得して、彼が宇宙船に乗って地球をまわっ
ているあいだに発見したという二個の自由エネルギーの水晶体を五
千ドルで買わせたと罪を問われたのである。法廷における証拠によって、
彼は他の人々からもほぼ五万ドルにのぼる金をまきあげていたことが判
明した。

一九六〇年、彼がベイカーズフィールドに住んでいた当時、彼は一九
五八年にベイカーズフィールドの人氣のない道路上で土星から来た二百
フィートの宇宙船に出会って、宇宙船の主人の乗員とともに乗込んだと
声明した。彼はかつて円盤に興味をもつロサンジェルス人の教グループに
講演している。

またシユミットは一九五七年にネブラスカ州カーニーの或るクリーク
の底に着陸した宇宙船の残骸と語り合ったとも林している」

ネブラスカ州カーニー付近のクリークの底に一枚の宇宙船が着陸した
のをシユミットが目撃したことを私は否定するものではありません。こ
れは實際に起った事柄なのです。しかしそれは宇宙人の船ではありません
でした。それはカナダで建造された或る試験機であって、戦後カナダへ
来たドイツ人科学者が戻込んでいました。その機体はほんとうの宇宙機
によって観察されていたのであって、そのホンモノの宇宙機があまり接
近したために試験機のエンジンが停止したのです。シユミットはその後
しばらくのあいだそれが土星から来た宇宙船だとは語りませんでした。
彼の元の話は後に行なった説明と全然相違します。

それは超極秘の試験機であつたために、彼の目撃の眞実性を完全に抹
殺する必要があつたのです。精神鑑定をするために目撃者を病院に入れ
て、しばらくして本人を退院させてから一般人に最初の目撃や着陸まで
も疑わせるような陳述をさせるとは実に巧みなやり方です。空想的な物
語をさせるためにサイレンス・グループはこのようなコンタクトマンた
ちの幾人かに金を出してゐるのではないかと私はときどき考えています。
数名の者にそれだけ食い違つた目撃談をやらせれば混乱が生じて真相の
すべては隠されるのです。

以上のように私が考えた一つの理由は、アダムス氏にかつて話かも
ちかけられて、彼の著書の内容が作り事であるという簡單な説明書に署
名をしてくれと五万ドルが差出されたことがあるからです。

前記のコンタクトマンたちに賞金を供給するためにどこからか金が流
れ出ています。彼らはたしかに講演をしながらその金を作つてゐるので
はありません。たぶん彼らはシユミットがやったようなサギで金銭問題

を解決してゐるのかもしれないし、それとも實際にサイレンス・グル
ープから金を受取つてゐるのかもしれない。

〔付記〕 先月号で私は『宇宙哲学研究グループ』が世界各地で結成
されたつゝあると述べました。私はこれらのグループの保証をするとい
うわけではありませんが、しかしこの名グループはG・A・Pの仕事を援
助したいと頼うまじめな人々によって組織されてゐるので、私は各グ
ループの所在地を發表するつもりです。各グループともアダムス氏の
著書『宇宙哲学』と『精神感応』を研究用のテキストブックとし
て使用してゐます。われわれは右の二著書に述べられてゐる内容だけを
支持します。

最初の因

C・A・ハニー

先月われわれは次のような結論に達しました。すなわち、各太陽系が
無限に過ぎた時間を通じてそれぞれ自分勝手に存在するとわれわれが仮
定するならば、無限に過ぎた時間という概念はそれ自体において不可能
であるといふことを意味することになるといふのです。それが考えられ
るとしてやはり説明にはならぬといふ。現在の瞬間における何物
かの存在は、それが一時間前、一日前、一年前、または無限に過ぎた時
間を通じてさえも存在したといふ発見または知識によってより容易に理
解されるでしょうか。もちろんできません。知的な考え方においてもこ

のような説を組み立てることはやはり不可能です。

自分勝手に出来上ったのだと言つたためには、われわれは原因なくして實際の存在と化してゆく形なき存在の概念をもつ必要が起つてきます。たとえこの考えを(自分勝手に出来上つたという考えを)概念のなかに描くことができたとしても、われわれは實際の存在物としてあるところの物々として考える必要があります。一つの存在しないこととは他の存在しないことと異ならねばなりません。

過去から現在にわたつて殆どの哲學者や神學者は、天と地とはもと存在していた無機物、ガスなどから作られたと仮定しています。これがほんとうだと仮定されても、それはやはり説明ではありません。その無機物やガス類はどこから来たのでしょうか。広大な空間以外には何も存在しなかったとしても、それはやはり説明を要します。

結局、あらゆる結果は原因をもつています。あとをたどつてみますと、われわれはついに最初の因の必要性を見出すのです。この最初の因の性質を知性的概念のなかに描いたり組立てたりするのは不可能です。この最初の因をわれわれは神と呼んでいます。これは母性原理すなわち母性自然(註。いわゆる自然界)にたいするものとしての父性原理です。キリストはこの最初の因をわれらの天の父と言つたのです。

人間についてはどうでしょう。最初の人間はどこから来たのでしょうか。本質的にはここでも同じ言葉があてはまります。人間の姿をした人間はその起源において宇宙に似たものと考えられねばなりません。人間は始めなければ終りもないのです。太陽系と人間の両方は、人間の心の限界のために以上のように考えられねばなりません。たとえわれわれが物質の性質やその始まりをどうしても理解できなくても、われわれは

今日存在するあらゆる物は、その構造をなす元の要素に因する限り、始めも終りもなかったと説明します。

もしわれわれが、この太陽系が形成されたときより数億年前にかのぼつてみるとすれば、やはり人間の姿をした人間が植物や動物とともに当時存在していた若太陽系のどこかの遊星に存在しているのを見るでしょう。

誤解してはいけません。遊星や太陽は生まれは消えてゆきまなければいけません。それらを形成している原子は始めも終りもなく人間の心が考え得る限り存在して来たのです。ガスから太陽系になり、また元のガスに戻つてゆきます。

かくて、人類は地球にのみ存在するという概念は不合理であることがわかります。それは論理的な心をもつ人には全く考えられないことであり、理解力を殆どもたない人によって促進されています。非論理的な心の持主のよい例は次のとおりです。

教会のなかで治療現象が起ると、それは神が癒したのだと人は言いますが、同じ治療が教会の外部で起るならばそれは悪魔の力によつてなされたのだと人は言います。これは、キリストが悪魔の力によつて悪魔を追い出したといつて非難されたという聖書中の例と似ています。内部で分れ争う國は立ちゆくことができないといヒエスは答えています。

宗教が科学に對立するたびにそれは覆かかれています。教会の出る結論の論理上の矛盾の暴露、何かの特殊な教会の不合理なトクマの証拠などは必ず教会を弱めてそれを信者から分離させています。

教会は知識にまさる物についての知識をもつていると公言していますが、このことがそれ自身の教えに矛盾しているという事實はポイントを

はずれたものです。教会はたった一言で神はあらゆる理解にまよると言
い、次の言葉で神がこれこれの特質をもってると断言したりします。
暖簾たる背景のなかに宗教はその背後にあの小さな基本的真理を常に
もつてきた。この基本的真理とは、或る、最初の因^クが存在し、人間の
義務と運命はその、最初の因^クにまで昇華して出会い、そのなかに吸収
されるように準備することにあるという真理です。

われわれが自身の誤った信念や考え方を誤り、誤めることの必要に
気づかざるを得なくなる場合に際して変化するほどに^{オペンマインド}心の持主
でなければ、われわれは自身の運命に向けて全然進歩してはいないので
す。

かつて教会は太陽は純粋で汚れなきものと信じてきました。太陽が黒黒で
汚れていると言えはそれは死にあたいするほどの罪でした。しかし結局
は論理的な科学が教会にたいして教えて誤った信念を認めさせたのです。
かつて太陽は悪に引かれ、遊星は善に引かれていると考えられたことが
ありました。しかしすべては結局宇宙の法則にしたがっていることが発
見されました。

最初の因^クについてのわれわれの意識はその結果を観察することに
よってわれわれに明示されます。それを想像することはできません。そ
れは直観を越えるものです。

あなたが以前に抱いていた考え方に一致しないような一つの声明を握
ってはいけません。そして他の考え方も捨てないことです。むしろ、
あなたの論理的な思考力を用いて自分のいろいろな考え方をありのまま
にくまなく書いてみるのです。次にそのもの見解や教訓のすべて
を比較して、^{オペンマインド}広い心をもって、あなたが更に進歩した結論に達して
いるか、また進化というハシゴを更に一段昇ったかを調べてみることで

す。

次号ではこの地上にちける人間の目的を論じ、理論的に根拠のある
人生哲学のための、この基本的な導入と基礎としてもう少し考えを述べ
てみようと思つ。また人間の死後がどうなるかを語り、来世のよき生活
のためにこの世でよき生活をすることうつ努力すべき根拠のある理由をお
伝えしたいと思つています。

一九六二年二月四日の科学的状況

——星占いを投げ捨てること——

C・A・ハニ

一九六二年二月四日に古代人のいわゆる七つの遊星である水星、金星、
火星、木星、土星などと太陽及び月のすべてが空虚に集合します。最も
離れるのは火星と木星で、その距離は約十度程度の開きがあります。太陽
は皆既日蝕となり、米国の太平洋沿岸ではこれが午後四時五十五分頃
に起り、太陽は地平線と約五度位の時で、日没前に観測するにはあまり
時間がありません。

この集合は異なる光景、大体二日続きます。過去にこのような集合
が発生したときは、物理的に地球にたいして、また歴史の流れにも何ら
異常な事は起らなかつたといわれます。

二月四日には何が起るでしょうか。答えはさきわめて簡単です。誰も知
らない、ということですが、ところで一つの新しい事実が現在つけ加えら
れています。太陽がその磁極を変えた事実です。これは、互に引き寄せ
合っていた力が今度は反撥し、互に反撥し合っていた力が引き合うこと

になります。新しい、異なる力（複教）と緊張（複教）が今や全遊星に及びつつあり、例の集合のあいだに他の遊星よりも地球に最も影響を及ぼすことになるでしょう。これは他の遊星群が地球からみて同一の方向に集合するためです。それらの力の場は結束して普通以上に地球に影響を及ぼすでしょう。

地球のまわりのその新しい異なるフォース・フィールド群は温度と気圧の帯を新しい位置に変えるでしょう。地震は各地でもっと発生する傾向にあります。起るとすればひどい地震が大地の隆起と沈下をひき起すかもしれません。一万二千人が死んだリビヤとモロッコの大地震では海自体が海拔八百フィートも持上り、チリーの地震では二十五マイルの長さの谷の海拔が千フィートも変化しました。

先月号でヤナムスキが述べましたように、ますます大きな度合で、より大きな地球において人々は不気味さと不安を感じていっています。各国の人々によってますます馬鹿らしい物語が言われたり行われたりするでしょう。この人々はこのような行爲の原因が何であるかに気づきまゝに充しないでしよう。

心のよくバランスのとれた人はこんな物事によって自分が左右されることはない筈です。われわれはやはり自分自身の運命を運ぶことがきるのであり、星が人間に影響を与えたとしたことをわれわれが信じないで、こんな考えに左右されない限り、遊星の位置は人間に影響を与えざる筈はいいのです。われわれの日常生活に心配を起すものはわれわれ自身であって遊星ではありません。

占星術の信者は彼らの日常の星位観測を行なっています。そして彼らはそれを信じているために、彼らの潜在意識が、起るだろうと信じている結果を彼らに生ぜしめるのです。彼ら信者は、潜在意識が自分を

あらゆる種類の災難の状態に向かわせる、災難にかりやすい人々に似ています。彼らは潜在意識にかかると、事象が発生するのを望んでいるのであり、またそのような災難は自分の側の何らの意識的な知識をもたない人によって生ぜしめられるのです。

今日占星術上の予言類は私に二五三四年の集合のときを思い出させます。当時古代人の七つの遊星は、水瓶座と象座の、湿度の多い占星術上のサインを表現していました。そこで当時の占星術者たちは恐れて、大洪水から世の終末まで三千年まであらゆる出来事を予言したので、おわかりでしょうが、実際に起るものは起りませんでした。それどころか多くの地域では二月が一年中の最も乾燥した月でした。

多くの占星術者たちは過去の歴史を指し、多くの歴史上の出来事を天文上の現象と結びつけようとしています。実際、何かの日付をちょっと選び出してみれば、その日付と一致する天文上の現象が見出せるでしょう。しかし前記の太陽と遊星群との関係は別として、占星術と実際の出来事とを結びつける証拠は存在しないのです。

人間がなすのに最上のは、星占いの星位観測などは投げ捨て、あなたの生活の知識とその教訓に従って自分の望む方法で生きることです。



断定的及び否定的考え方と動機

ジョージ・アダムスキ

過去数百年に多数の人が断定的考え方の研究を始めてきました。しかし多くの人は断定的考え方は否定的考え方と全く同様によくはないものです。この両者のいずれも極端な考え方です。応用するのに望ましくてもかまわないものとしては、全体が見おろされる裏中の情景というものが存在しています。

断定的考え方の危険性を示す一例はアドルフ・ヒトラーでした。彼はこれを極端に行役して行った力となり、この考え方を採用することによって自己の全活動に空のてらしたのです。一方、大衆は否定的思考でした。彼等が始めたとき、彼らも極端に定めた否定的思考の犠牲になったのでした。

この二つの考え方がよくないとすれば、正しい考え方とは一体何でしょう。正しい考え方を生み出す過程及び動機は、動機です。ここで正しい考え方という場合、それは必ずしも善き考え方を意味するものではありません。むしろそれは断定的否定的二つの力を用いて、動機と呼ばれる一つの結果を引出す均衡のとれた考え方を意味します。

動機を必然的に伴うその特殊な法則は人間の表現や行動のあらゆる経路を通じて働きかけます。あらゆる他人を排除して自己改良を試みようとする動機は悪い結果以外の何物をももたらしません。それはあらゆる人々から本人を分離させることになり、望ましくないと自己主義を促進し、個人の自覚を減らすことになり、

と云うが、てさるだけ多数の人を助けようという動機は、動機が促進

される経路を自動的に高め、改良します。例をあげましょう。かりに私が隣人のなかに好意を盛りあげようとするれば、私は自分を伴わないで自己を忘れたままに世間の人々のためにあらゆる事をやります。私は自分を含まねばなりません。なぜなら私は自己改良が表現される経路になるからです。私は自動的にその経路のなかにいるのです。この種の善き動機は神聖的に認められるのです。

自己改良を試みようという個人的な欲求は否定的な支柱のなり断定的考え方に似たものです。それは必ず混乱をひき起し、ついには完全な不満足をもたらして本人を不均衡にします。それが断定的であつても否定的であつても殆ど相違はありません。同じことです。もし個人の自己改良にたいする動機が断定的だけかまたは否定的だけならば、体験は實際の動機にはかかわりなく半分の真理だけをもたらします。なぜなら一対の片方が除外されていくからです。徹底して単純であらうとすることは危険な習慣です。

自己改良計画で成功するためには、前に述べたように人は多数の人にたいして召使いにならねばなりません。そうするとその多数の人々はその人の欲求の動機が發展したり成就したりするのに役立ってくれるのです。これはみな神の計画にしたがったものです。そうすることによって、この努力でもってこちらから援助する人々は自動的にこちらの教師になります。これは全く等しい人間が二人と存在しないためです。あなたが援助しようとしている相手のいすれもが、あなたが相手を理解しようとする努力にたいして何らかの報酬を差出します。実際にはわれわれは互に教え合っているのです。これは自己改良のほんとうの方法であるばかりでなく、生命のほんとうの動機です。

キリストはそれをきわめて端的に言っています。すなわち、もしあなた

だが他人のドアを通過して入るならばあなたは盗人であると。われわれにとつては盗人は心地よい生活を送っていないように見えますが、しかし彼らは自身の環境のなかにあれば結構楽しいかも知れません。これは自然の状態の業としてではありません。その盗人が同じ泥棒仲間のみかにいればやはりホロホロで汚いのです。人間は如何に努力しようと多少数者だけに奉仕することによって業しくはなれませんが、生命と宇宙の高次の法則を知ることでもできないのです。自分が欠くべからざる一部分となつてゐる万物に奉仕しながら父の意志を行なう者は幸なるかなです。

自己を十分に理解するためには、人は無教の人々に奉仕する必要があるります。無教の人々が存在するからには神の表現である無教の径路が存在します。ただ一つの径路かまたは少数の径路だけでは自己の理解に役立ちません。それはちょうど万物を照らしている太陽が急にそれをやめて一個人だけを照らすことができぬのと同じです。こんなことをしたらその目的を達成することにはならないでしょう。個人が、自分自身を知つるためには、動機が、多数を通じて存在するのです。

私は自分自身を除外して無教の人を援助しようという欲求または動機をもっていますので、この奉仕をするために十二度はかり生まれかわつていきます。われわれの判断によればそれらの誕生のなかには不愉快な場合もありましたし、さわめて愉快な生活もあったという事です。しかし誕生——新生——というものは私がこれまでに奉仕をしてきた多数の人によつて私に与えられていゝまゝ、なぜなら私に何かを教えてくれない人はいないからです。

私がこれまでに回答してきた無教の手紙類のどれもが、金銭、黄金、またはこの世が与え得る如何なる名声などよりもはるかに価値のある事を私に教えてくれました。その手紙類を通じて私が知つた物事は私に新

しい誕生を与えてくれ、現在の私という人間にしてくれたのです。この手紙類にたいする絶え間のない回答は明日私を更に別な人間にしてくれるでしょう。ごさやかな方法によつて私が奉仕する相手の人数がふえればふえるほど、人々は私という人間をますます大きくしてくれます。一方、私はその人々を通じて更に私自身をよく理解することになります。もし私が少数の人か自分だけに奉仕したならば、私が知らねばならぬ物事を誰か教えてくれたでしょう。私自身についての知識は私が奉仕した人数と同じほどに小さなものだったことでしょう。

あなたがたにたいする私の助言は次のようなものです。できるだけ多くの人に奉仕しなさい。奉仕する相手がふえればふえるほど、あなたがた自身についての理解が高まるでしょう。実際にはこのことが生まれてきたための運命を成就したいと頼む人の動機になるのです。

神は万物に奉仕していません。神は自分のための考えをもつてはいません。だからこそ神は最高なのです。そして、神の子であるわれわれも同じようにやらなければ神の意志に従ふことにはならないでしょう。次のように質問してみましよう。神はわれわれかもししくはその創造物の何かに日常の必要な物を供給してその報酬を求めらるでしょうか。いいえ、求めはしません。神が受ける報酬は、その創造物が創造された目的を達成するとき、求められることには来るのです。人間も同様です。これが地上における人間の目的を達成する唯一の動機です。それは他の諸遊星でもさわめて立派に遂行されているのです。

X

X

質疑応答

(註。これはゴズミック・サイエンス・ニューズレターに掲載された疑問と回答の全訳で、回答はハニー氏によります)

〔問一〕 同書記のなかでアダムスキ氏は母船の頂上を歩いたと述べています。宇宙空間には空気がなく、しかも危険な放射線や微粒子類が満ちているのに、どうしてそんなことができたのですか。(フロリダ州マイアミ、J・F・K)

〔答〕 母船はそれ自体が磁場をもっており、それが毛布のように船体を包んでいます。この磁場は性質において引力をもつもので、地球を離れても船体の周囲に大気を保有しています。アダムスキ氏はわれわれが地球上にいるのと同様にこの大気の毛布のなかにいたわけです。この大気が彼に呼吸を可能ならしめ、また空間中で彼を保護したのです。船体の引力は地球の引力にならったものです。その船体は静止しているように見えたが、実際には地球の周囲の軌道に束縛されていました。

〔問二〕 アダムスキ氏が他の遊星上の人間と霊的にコンタクトしたという説を私は信じませんが、霊的なコンタクトも理論的には可能だといふことを私は否定もしません。宇宙人はそんな方法を用いないと言っています。他の遊星でかかる霊交法を用いる確実な例がありますか。(フロリダ州マイアミ、J・F・K)

〔答〕 ありません。誰もそんな方法を用いけません。警告を発したりするには精神感応が応用されますが、これは霊交ではありません。いわゆる霊的なコンタクトとその要因などに関する十分な説明はアダムスキ

氏の著書『精神感応』に述べてあります。宇宙人は異変したクリスタルたちまたは宇宙人自身が地球人へ霊的にメッセージを送るといふことを認めてはいません。

〔問三〕 科学者のなかには、地球人に似た人間が円盤の内部に乗ることは不可能だと考えている人があります。なぜなら、もし束縛しているとすれば、あのような速まじいスピードでの九〇度のターンに堪えることは如何なる生物にとっても不可能であるからです。かりにそんなターンがなされるならば、彼らはどうしてそれに堪えることができるのですか。(フロリダ州マイアミ、J・F・K)

〔答〕 オーに、科学者というものは自分自身が専攻している分野以外の事柄について話す場合は他の人と同程度にすぎないということを忘れてはなりません。通常科学者は自分の専門以外の物事については、技術教育を全受けていない一般市民以上に知っているとさえ言えないのです。彼ら科学者は専門的にはずいぶん研究しますので、自分の選んだ道よりも異なる分野の研究をするための時間や好みをもつことができません。不幸にしてこのことは彼らか何も知っていない物事に因りて十分な意見を述べさせない状態にしています。彼らは一見権威者を装っており、それを大家は間違いないことだと思っているのです。彼らは誰からも確定的な権威者として引合に出されません。

さて、これらの科学者達が脱落している前記の問の真の解答は何でしょうか。その秘密は円盤自体の推進装置にあります。それは性質において重力に依ったものではないです。あなたか飛行機で急降下して次に急上昇するとしますと、二、三の物事が同時に起るでしょう。機体は上昇してもあなたの体の自然の慣性は体の姿勢を元のままに保とうとします。体は機体と一緒に上昇しようと

はしません。あなたは自分の体を座席に押しつける加速度を体験するでしょう。血液は頭から流れ去り、それがひどくなると一時的な意識喪失状態になります。もしこの加速度があまりに大になると実際にはあなたの体を機体の底へ押しつぶし、その結果内出血を起して死を招くことでしょう。これが科考者たちが急進な九〇度ターンを論ずる際に言及する問題点です。普通の推進装置でかかるターンをすれば、旋回したときにもパイロットは前方へ向かおうとするので押しつけられ、必然の結果として伴う速まじい加速度で死ぬこととなります。

ところで、円盤は性質が重力に依ったような磁場をもっています。このことはその磁場が重力のすべての特性を發揮し、他の物体が力場などにたいして吸引したり反撥したりすることを意味します。

円盤が急速にターンしようとするとき、それは風板にかかる圧力によるのではなく、地球の周囲の重力場にたいする円盤の周囲の重力場の反撥作用によるのです。もし地球の飛行機にこのような重力場が応用されれば、われわれは次のような作用をもつこととなります。

すなわち、あなたが急降下の姿勢から上昇飛行に移るために操縦桿を引度すならば、飛行機の磁場の強度と方向の変化が起るのです。この重力をもつ機体のあらゆる分子をもち上げるばかりでなく、機体内部の物体のあらゆる分子をももち上げます。あなたは自身も機体と共にもち上げられて、加速度を全感ぜることはありません。なぜなら、あなたはもはや元の運動の方向に動こうとする慣性を失っているからです。あなたの頭のなかの血液の分子もあなたの肉体や機体と全く同様にもち上げられます。それゆえ、あなたは意識を喪失することはありませんし、如何なる不愉快な感じをも体験することはないのです。あなたの肉体内の骨も機体と共にもち上げられますので、如何なるショックも感ぜるこ

とはありません。時速数千マイルのスピードから瞬間的に停止すること可能ですし、立ち歩いても何も感じないのです。現在、世界の多数の研究所で地球人自身の手になるこのような推進装置を完成す方ために各種の方法が研究されています。

〔問四〕　ダーウィン説については如何ですか。われわれは実際に霊長類から進化したのですか。それともわれわれの祖先は他の遊星から来たのですか。(フロリダ州マイアミ、J・F・K)

〔答〕　ダーウィンは決して人間が猿から進化したとは言っておりません。彼や多くの科考者は人間も猿も一つの共通した祖先の子孫であると信じているのです。この未知の祖先は長いあいだ探求されましたが、うまくゆかず、一般には「ミスィング・リンク」(註。人間と類人猿とのあいだにあると想像される動物)と呼ばれています。

人類学の世界におけるかつての偉大な発見の多くは、近年になって反駁されていきます。一例をあげるとピルトダウン人があります。ピルトダウン人の存在は一九一二年に英国サセックス州ピルトダウンで発見された頭蓋骨の破片から結論づけられました。地球上における人類の真実の起源は何でしょうか。次にその解答があります。

現在の各民族の祖先は(ときとしてこれは「アダム族」と呼ばれます)他の遊星から宇宙船で運ばれて来ました(十三種族の起源です)。人類は概して平安と調和のなかに生きることを好みますが、なかなかに貪欲で利己的のもあり、そのために自己の個人的自我と喧嘩が起ってきまふ。次いで人間は自己の欲望を他人に強制しようとしてきます。このことは、宇宙の法則に依って生きることを人間に命じている教えがあるにもかかわらず他の遊星にもどきとして起るのです。

そこで大昔、他の遊星で知恵の導師たちが会合して、人間の生命を操

持てざる他の遊星へこれらの利己的な人々を運び出すことに決めました。發達の段階において最後の人々がこの目的のために選ばれたのです。この太陽系内の目的地は地球でした。こちらへ連れて来られた人々は、この太陽系内外の多数の遊星の「厄介者」でした。この人々を文字どおり幽閉したり殺したりすることはできませんでした。これは宇宙の法則に反するからです。この人々はすべて同じような微様な性質の人であったため、また誰も他人に譲歩しようとしなかったため、自身の運命と調和を自ら開拓するように仕向けられたわけです。この導人々々は如何なる種類の技術や道具類も持たされないうち地球へ移住させられました。これは彼ら自身の知識と性質だけでもって彼ら自身の才能に頼らせるようにせられたのです。(エデンの園を離れざるを得なくなつた人間のことを思い出して下さい)。その後人間は激しい仕事によって自分のパンをかき必要が起つてきました)

以上であつた宇宙からの多数の使者が長いあいだ地球へ来統けている理由がわかり始めたでしょう。彼らは真実地球人に関心をもちつており、だからこそ彼らは地球人を援助してゐるのです。あらゆる人間は(男女は)自分自身の進化の階段を昇らねばなりませんので、彼ら使者たちは公然と姿を現わしません。多くの宇宙人がわれわれのあいだに任んでいてその生き方を示しています。あなたが進化するか停止するか、どの道を選ぶうともあなた次第です。

〔問五〕 宇宙に属するこの新しい知識は宗教と教会を破壊することにほなつてはどうか。(これと同様な質問が多数来ました)

〔答〕 それは今日の教会に存在する誤りや独断の多くを破壊するかもしれませんが、實際には人間をその創造者の知識に親しく引寄せさせる筈です。ロサンジェルスの一組合教会のジェイムズ・W・ファイフ

ールド博士は、一九六一年十二月三日付ロサンジェルス・タイムズ紙の彼の欄で次のように述べています。「實際、大気圏外について知られた事柄はこれまでにないほどにわれわれの信仰はたいして深く広い確証を与えてゐる。一元論的な星々の満ちた宇宙は無数の恒星を有し、それらの周囲にはたぶんわれわれのケシ粒の如き地球に似た遊星群があるだろう。同じ法則と実在の基本的な要素が宇宙の各天体のいたるところに遍満してゐるのだ。——スベクトルの交で、運動の交で、そして基本的な元素の交で——。一つの神がこれをもくろんでゐる。世間は平たい」といふエデンの信念が如何に縮んだことか、そして神人間形論的な人間の姿をした神が、この星國のなかに現われてゐることか」

〔問六〕 あなたやアダムスキ氏は宇宙人が世界の各国政府で働いてゐると言つておられますが、この人々が宇宙人であることを各国政府は知つてゐるのでしょうか。(ウイスコンシン州ワウアトサ、A・H)

〔答〕 各国政府や研究機関などの或る人々は、彼らのあいだに混つて働いてゐるこの人々が他の遊星から来た人間であることを知つてゐます。大衆は知りません。多くの政府のなかには、コンタクトマンたる指導者がいて、自国内で起つてゐるあらゆる物事によく気づいてゐます。たとえば空軍にはコンタクトマンがいたりして、内部で働いてゐる宇宙人のいくらかを個人的に知つてゐます。本人は彼らが他の遊星から来た人間であることを知つてゐるのです。しかし本人の上官、大臣級の人でさえも宇宙人が存在することは知らぬかもしれません。

〔問七〕 彼らは円盤について知りませんでしたか。この書の中に述べてある黒衣の三人男とは誰ですか。

〔答〕 〃もしも——私は〃もしも〃という言葉を強調しますが、——この三人男が存在するとすれば、彼らはいわゆるサイレンス・グル

ープの手先であるか、またはへんくつなユーモアのセンスをもったぶげ
け屋でしょう。

今日多くのサギ師が牢獄人を装^{よお}て往行しており、またあたかも黒
衣の三人男のようにみせかけて暗躍しています。なかには団体や政府
に属さず独力でこれをやっているものもいます。多くの自林コンタクト
マン、特に南ケアリフォニアの婦人連は、他の遊藝から来たと探して
りる人々に会って彼女らが真実のコンタクトをしたと認め込まれてお
ります。こんなふうにして誤った情報が流され、状況に混乱が起つてま
すます人々を真実のコンタクトを信じなくなるわけです。

以上が典型的なコンタクトについて多くの考え方が起つてくる理由です。
この種の情報を流すのはサイレンス・グループの計画の一部です。この
グループはわれわれが真実のコンタクトを承してもそれを容易に取上げ
はしません。ロサンゼルスのあるグループは、電カクによってアダム
スギ氏と彼の計画を物破しようとする教団も「祈禱」をやったりして
います。彼らは自ら理解してはいない何かと共に活動しているのですが、
それは結局自分たちのほうへ向けられて自身を破壊することになるでし
ょう。

アダムスギの撮影した円盤写真をインチキなものだと考えている
人に対しては、英国の円盤研究誌「フライイング・ソーサー・レ
ビュー」誌をお見せしたいものです。世界の最高權威を誇り、最大
の発行部数をもつ同誌が一貫してアダムスギの円盤写真だけを真実
なものとして認めて十枚一組で頒布している事実は何かを物語っていま
す。C・A・ハニー氏も十八種の円盤写真やスケッチなどを頒布
してします。詳細は文保団宛に御照会下さい。

地震に関する報告

来月は（ハニーは）地震とその原因に関する長文の報告を掲載した
いと思つています。読者は新発見の或る事柄に驚かされるでしょう。また
現在発生している地震の或る原因にもつと驚かされるでしょう。この報告
はまた、事情を知らない人々によって「ソニック・ブーム」(註。空中の
大音響)と書かれていられる。空震になるものにつけても解説することに
なる筈です。空震と地震のあいだには一定の型が存在しています。

地震は多くのまじりの科学者がなさいする時とこれまでにその発生回
数が増加しています。たぶん学者は猶もアダムスギ氏が正しいこと、地
球が根本的に変化(後教)を蒙りつつあることなどに気付き始めてい
るかもしれません。

米国の科学者は地震ばかりでなく人工的な爆発を記録するために、
六十五カ国に超高度の地震計による測定網を張りめぐらそうとしてい
ます。この測定計画本部は一九六一年十二月十八日に、その仕事は
米陸軍司令部からの財政的援助を受けて始まりました。結局
それは六大陸の百六十五箇所の連絡網となり、一九六二年の秋に完成す
る筈です。

面白いことには、ソ連は米国の器材の提供を断つた上、自分たちは測
定装置を次出所有していると言明しました。ソ連の科学者は米国の諸発
見に近づいてしよう。完全な測定の結果はワシントン市のカマーシャル
デパートメントに提供されることになっていて、そこで科学者が入手で
きるように写真のコピーが複製されることになっています。なお、この
計画を立てるものとなった多くの新発見は地球観測年調査から出たもの
です。(註。以上でハニー氏のニューズレターオニ号の紹介を終ります)

(註)この頁からハニー氏のコスミック・サイエンス・ニューズレター三月号の内容を引続いて全訳掲載致します。(一編者)

私はなぜメキシコへ行くか

ジョージ・アダムスキ

一九六一年十二月二十七日付で、メキシコ市の「ザ・ニューズ」紙は米軍が円盤製作計画を中止した旨の記事を掲げています。国防省によるこの表示は、円盤製作計画が急速には実現しないこと、少なくとも当分の間ダメであることを意味します。

空軍が円盤を壊した機体を製作しようという米軍のこのお粗末な企ては、他の惑星から地球へやって来る実際の円盤と同じ効果をもたらすものを作ろうという意図をもたないものでした。この米軍製円盤は推進力として磁場をもたず、かわりに空気の噴射によって推力を得ようというものです。これでは高速で飛んだり高空に上昇することは全然できません。同新聞の六頁には、すべての予備テストを行なうことなしに、ダイナソア・グライダー(註)ロケット動力による「グライダー」を直接地球の周囲の軌道に打上げる予定だと空軍が表明しています。

彼らは一休誰をこまかそうというのでしよう。世間に広く知れわたった前記の「ダイナソア」は、実際の円盤製作計画をこまかす手段にすぎなかつたのです。ダイナソア・グライダーも同じ部類に入ります。ロケットの上部にパイロットを収容する方法はキャビンとして以外に彼五つことはありません。そんなものは遠い宇宙空間への航行には不向きです。ただ、現在極秘で製作されているホンモノの宇宙船への一発展段階として

価値をもっているだけのことで、この超極秘の宇宙船は磁場による推力をもつもので、その飛行テストの結果は「ホンモノの宇宙船を見た」と一般人が目撃報告をしているほどの驚異的なものです。ドイツ人科学者連が米軍とカナダ政府に協力して長年のあいだこの宇宙船建造に活動してきています。

二の新しい空軍の表明は、私が五年前に言った事について部分的な証明です。ダイナソアと同様に原始的ではあるけれども、それは最近失敗した月ロケットよりは有効なものとなるでしょう。ニューズが不足しているにもかかわらず進歩はかけて着々となされていきますが、これはみな宇宙人と彼らの知識による援助のためです。

私と親しく連絡し続けてきた人はみな知っているように、私はメキシコへ移住するつもりでした。私のかつての秘書(註)ルーシー・マクギニス)はこのことを知っていて、そのために彼女はスペイン語を勉強していきよした。ところが私はすぐに移住をしなかったために、多くの人は私を信じませんでした。彼らは多くのウソの情報をだまされて、自分たちと同様に産物と化したコンクリート・ブロックの cage にかくれているのです。もし彼らを引きこめる幹部たちがその言の如く実際に宇宙人とコンタクトしていたならば、あんな手段はとらなかつたことでしょうし、彼らのメンバーたちの金を浪費したりしなかつたでしょう。

さて、五年以上も前に私が宇宙人から与えられて公表した情報と内容の一致した情報がかつています。エスクワイアー誌の一九六二年一月号に、核戦争手はひどい放射能にたいして世界で最も安全な場所(複数)を示した完全な地図が掲載されています。全世界がわすか九箇所だけが存在しているという地図です。

これらの各場所の一つに、二の五五回私が居住しようと思つていた、グアタハラ地区があります。(註。メキシコ西部中部の都市、ハリスコ州の首都、人口三十八万) 私の友人たちの殆どは一九五六年に私がこの町に言及したことをおぼえて居るでしょう。今われわれは公の証明のいくばくかをもつて居るので、読者はそれによってこれ以上私の言葉をとりあげる必要はありません。

右の記事によりますと、一九六二年は危険期の始まりだといわれています。これ以上に核爆発実験が行なわれるならば、——これは避けられないものなのですが——放射能の危険は増して、やがて世界の九個所だけが住むのに安全となり、しかもそのなかには完全でない場所もあるということ、これらの各地域のなかには、子供を連れて行くのに豪氣を要する場所があるかもしれぬということ、

米国が大気圏内で核爆発のテストを続けるならばどうなるでしょう。ソ連も始めるでしょう。次いでフランス、英国、中央、その他の国々がまもなくあとに続くでしょう。これは絶滅の始まりとなるでしょう。

ケアリフ、ニア州ユレカは米国とカナダで唯一の安全な場所であるといわれています。しかしそこはきわめて危険です。放射能は米国内の他の如何なる場所よりも少ないのですが、子供をもつ人々にとっては心配になるほどにやはりかなりな放射能があります。ケアリフ、ニア州ユレカとアイルランドのコークに関して右の記事が述べているように、生存者ということになれば、そのどちらも地上に残されていくものを引継ぐことにはなりそうもないのです。

私はメキシコで休暇をとり、今帰つたばかりです。グアタハラ地区の数箇所を私は見ましたが、それらは宇宙人々の仕事の続行に好適と思われれます。特にそのなかの某箇所はきわめて美しく、拡張のための

余地と人間の心が望み得るあらゆるものがあります。

たしかに、それを運営するには資金がいるでしょうが、これは何らかの方法によって解決されると思ひます。解決され次第に私は二人移住するつもりです。これは私が臆病なからではなく、それがすべて終つた後に残された人々がわれわれの援助を必要とするからです。これが宇宙人の討伐なのです。

地震と空襲

C・A・ハニー

現在地球上に異常な現象が発生しつつあります。わずか一カ年のあいだにこれほど多数の大地震が発生した例は世界史上にかつてありません。専門家によりますと普通は一年間に十回の大地震と百万回の小地震が起る可能性があるということ、

右に記された地震の平均回数に及して私の調査した記録だけでも一九五九年の十一月、十二月の二ヶ月に十三回の大地震が発生しています。私の調査は新聞の報導によりますが、その他にも私の知らないのも発生しているかもしれせん。一九五九年の十四週間に二十六回の大地震がありました。これは一年間十回という普通の割合で二年半続くのには相当します。

大規模な地震活動がこんなひどく増加した理由は何でしょうか。種々の説が今日科学者によって探求されています。これらの科学者によれば、一つは一定の期間をわけて広範囲な土地が移動することによって起るのだといわれています。しかし彼らは土地の移動の理由を明らかにし

てはいません。

この問題についてさしめて興味ある記事が今週、誌の一九五八年三月三十日号に掲載されています。「——科学者は予言する——新たな氷河時代がやってくる」と題したこの記事はモリス・ユートン博士とウィリアム・シ・ダン博士によって書かれたものです。

ユートン博士は米国一流の海洋学者、地球物理学者の一人として著名であり、海底の地層に関する最高権威者です。彼は多くの海底調査用探査機を開発しています。ダン博士はブルックリン・カレッジの地質学の教授で、北極圏測年のための米蘭太西洋諸島観測船設置計画の指導者です。

二人の意見では、北極はもと中部太平洋にあって、南極はもと南太西洋にあってたこのことだ。前回の磁極の移動は一万二千年前に起ったと二人はその論文の始めに述べており、また最後に、この磁極の移動は一万二千年前に起ったと述べています。したがって現在、北極圏にある二点を意味することに成ります。

ここで疑問が起ります。この磁極の移動を起すものは何か？ またこの現象にたいする科学的な理由があるのか？ ということです。答えはまさに「ある」です。このような現象の起る理由を説明する科学的理由は存在していません。

一九五九年十月二十五日付のロサンゼルス・エグザミナー紙は次のような記事を掲げました。「太陽の磁場逆転す——太陽の磁極は移動した。ただし天文学者は太陽内部の如何なる大きな力がこの現象を起したかはまだ知っていない。この発見はウィルソン及びパロマー両天文台の一部である太陽観測所のハロルド・D・バブコック博士によってなされた。博士は言う。『この逆転は緩慢なもので、一九五七年のなかば頃には

太陽の南極において始まり、その年内に北極地帯へ移動した』五十年間ウィルソン山に協力してきたバブコック博士は一九五二年に太陽の全磁場の観測を始めた人である。その後五年間南極は交り始めまじあり、地球の磁場のそれと正反対になつてゐる」

太陽におけるこの変化は地球に如何なる影響を及ぼすでしょうか。かかる現象は実際に地球に影響を及ぼすのに二、三年かかるかもしれないので、これは現在までの異常な天候や地震の謎を解くカギの一部になるかもしれない。それは地球の磁場をも逆転させるかもしれない。地球の自然の磁力は地球をもとの運動の方向に動かし続けようとするが、一方太陽の逆転した磁場は地球を新しい運動の方向へ行かせようとする。これが地球にたいして大きな圧力と緊張をひき起させます。そこで地球はこの力のもとに動き始めるといふわけです。

もし地球が方向を変えようとするならば、大きな回転運動の力が自転軸の移動と地球の表面の崩壊をひき起します。国際地球観測年の科学者たちは地球の周囲に出現した長さ四万五千マイルの巨大な割れ目をすでに地図で現わしています。世界各地の主な断層線はこの巨大な割れ目の一部です。地球の如き大層積を成すこのような変化は完全に終るまでに数カ月または数年かかることを理解する必要があります。最後の歴史的な地震の起るかは誰にもわかりません。これに伴う大きな自然の力(複教)は恐まじい地震をひき起すでしょう。この場合の地震は千個の震源に匹敵する力をもつかもしれないと予測されています。

数カ月前に破壊的な大地震がメキシコを襲ったときは、海水が逆巻きながら引いてゆくと、巨大な割れ目が海底に出現していたと沿岸の住民たちは報告しました。海水はそのあとまた押し寄せてきたといふこととす。

一九四六年にアラスカ付近での海底地震がハワイ方面へ向けて津波を起しました。そのときにくらべると規模は小さかったにしても、一九五七年にそれは再度起っています。最初のときは、この津波は二、三フィートの高さでハのなれし一〇〇マイルの間隔を置いて時速四五〇マイルでハワイに向かって進行しました。それがハワイ付近の突出した海底へ近づくとつれて文字通り一波ずつ重なり、ついに四のなれし五〇フィートの高さの大波になってしまいました。村々は海中に呑み込まれたのです。一九五七年の津波は約五フィートの高さにすぎませんでしたが、やはり村々を押し流しています。

もし地球の自転軸の完全な移動が起れば大地震と大津波が世界中に大破壊をもたらすでしょう。このような変化は地球の軌道ばかりでなく他の遊星にも影響を及ぼすでしょう。

太平洋の海底に口を開いた新しい割れ目が最近発見されました。地球の内部から熔岩がその割れ目を満たすために流れ出ていました。この割れ目は、まるでトゲ状の骨髄に似た海底の山脈の峯々のあいだをジグザグに走っています。太平洋で発生した地震はこの割れ目と一致します。

この情報はモリス・ユイニング博士によって公に出されたものです。地震と空震とのあいだには一つのつながりがいづも存在してきました。大抵の場合、空震は音の壁を破るときに航空機によって起されるソニック・ブームだと言われています。これは或る場合は事実ですが、多くの

このようは大きな音は航空機によって起されるものではありません。数ヶ月前、米国東部の上空に巨大な空震が突発しました。それはコンクリートの歩道、大通り、建築物を破壊し、一平方マイル以上の地域にわたって無数の窓ガラスを飛散させました。いわゆるソニック・ブームはこれほど強力ではありません。以下は翌日掲載された記事です。

前記のポイントは一九五九年十月五日付のロサンゼルス・エグザミネー紙に掲載された記事のなかで明らかにされたものです。

「ジェット機のソニック・ブームは人間を傷つけることはない——十月四日ミネソタ州ドゥルース発。音の壁を破るジェット機の音はあなたに「こんにちは」と言わせるだろうが、しかしそれは人間を傷つけることはない。右はソニック・ブームの突発によってびくくりする人々の神経や気分をやわらげるためにドゥルース空軍司令部の備報官から出された表明の要旨である。『このソニック・ブームの結果のついでに空軍にたいしてさまざまの不平が言われてきた』と表明では述べている。ソニック・ブームが一、二枚の窓ガラスを破ることは認められているがただしそれは先ずガラスがたるんでいるか不正確に取付けられている場合に限る。ソニック・ブームではそんなふうにはならないという例を空軍は次のようにあげている。壁や歩道を割るとき、建築の法規通りに設けられたプラスチック壁を割るとき、屋根を雨漏りさせたり歪めたり割ったりするときは、家屋の骨髄に損傷を与えるとき(右に述べたような窓の不十分な取付を除く)、または人間がケガをしたり家畜の害を与えるときなどである」

右の表明が真実ならば、多くのいわゆるソニック・ブームは航空機でなくとも、と強力は何かの力によって引き起されるのです。

多くの地震は一般に空震と同じ日に起るか、または空震のすぐあとに続きます。或る場合には、重力の消滅現象らしきものが地震の発生する直前に起ります。目撃者の話では、物体が地面を離れて空間に浮揚し、目撃者たち自身も最初の震動が感じられる直前に体が無重力になるのを感じたという事です。このことは、これらの地震の起原について新しい考え方を開くものです。

或る地震は地球の磁場の阻波の結果であると言えられてしまふか。一地震における重力の圧力の解放は大地を外方へ押し出させて、地震を発生させるのかもしれない。このことは地震が起る土地一帯の物体が無重力になることを説明するでしょう。もし地球の周囲の磁場が除去されるならば、内部の圧力は外部へ押し出さるほどに強力となり、その結果地震を起させることになるでしょう。

一万二千人の生命を奪ったアルジェとモロッコの地震を記憶でしようか。アルジェの地震ではまさにそれが発生したとたんいきなり閃光を見たと言撃者は報告しています。この閃光についてはこれまでに何度も報告されています。私の信ずるところでは、これはその地震における地球の磁場の崩壊と同様であり、その結果地震が起るのだからと思ひます。

地震の原因に關する別な考案方に「^{アースクエイク}土地の潮の説」があります。通常五インチ以下であるアース・クイドは海の潮をひき起すのと同じ力によって起ります(これは主として回転運動によるもので、月によるのはありません)。さわめて小さいものながら、これらの潮は地球内部の湧き出し圧力を増大させるのに役立つ、また地滑りの一部の要因でもあります。

地震と気候の変化は互いが互いに増加しています。異常な寒霜波が起り始めるでしょう。又気候の変化はいつも周期的に來ますので、これらの変化の激烈な性質が明らかになるのも遠からぬことでしょう。(今段から繞つてパイロットの胸につけてもらつたように努力するつもりです。また今春も受けていたインド探險の際にエヴェレスト山頂へこのピン的一個を探險隊に持って行ってもらつたつもりです。これらが実現すれば、新しい状況にたいする興味ある周知性の基礎ができてしまふでしょう。

「バンスン氏からの書簡(三月三日付)」

約十日前の留守をして帰宅したときにあなたに二月二十日付の手紙を受取つて嬉しく思ひました。私はカナダ動物協会との話合の用事で北部へ行つておりました。またカナダのトランブラン山のスキー場で数日をすごしました。そこは私の考えでは東半球一流の行樂地だと思います。そこに滞在していたあいだに私はアダムスキ氏に三通の手紙を書きました。一通はジョン・グレン中佐がキャプルの外部に不思議な光のようは光を見たというのが、アダムスキ氏の体験と妙に一致していることを述べたものです。彼が私に個人的に話ってくれたところにより、すと、彼が宇宙母船の窓から外を眺めたとき、大気圏外に存在する最も驚くべきものは、暗黒の空間に見えた無數の螢の光であったということでした。(註。このことは、同誌記事中にも書いてあります)これはグレンが宇宙飛行を行なうときより約十年前のことです。頑固な科學家でさえもこの現象を最も異常な一致と考ふるにちがひありません。宇宙空間におけるこの現象をグレンが見ると誰が想像したことでしょう。この正体が何であるかについてもっと詳細を知らせてくれればアダムスキ氏に手紙を出しました。

数日したり再びアダムスキ氏に手紙を書くつもりですが、その際はあなたの活動と、日本において彼の名を不滅化させようというあなたの決意について知らせてやるつもりです。

アダムスキ氏はこの太陽系内の宇宙の男性と女性を象徴的に表わした小さな織り針をデザインしました。たぶんこの模型は金星から与えられたものと思ひます。その起源のことは話さずに私はなんとかして次回の日米同衛星打ち上げの際にこれらのピン的一個を「信任状」として

◎ 今月はアダムスキの新著「宇宙哲學」の内容を紹介するつもりでしたが、原書の到着が予定より遅れましたために、かわってハニー氏のニコズレターオニ号とオニ号を名記事とも全訳で載せることにしました。したがってオニ号からオニ号の上段までは全部ハニー氏のニコズレターの紹介となっています。いずれの記事も重要な内容を色付けていると思いますが、特に地震と空震には意味深長なものがあります。これはあくまでも科学的な調査によるもので、心靈的なメッセージ類とは根本的に異なるります。

◎ アダムスキの新著「宇宙哲學」は先般やっと到着しました。一読しましたか内容のすばらしさに圧倒されます。これは極上の紙を用いた八十七頁からなる美しい装幀の書物で、ニコに個人用バイブルとして限りない価値をもつものといえるでしょう。無駄な語句を省きただけ省略して全文がすばやく述べてあります。目次を紹介すれば次の通りです。ための助言が力強く述べてあります。目次を紹介すれば次の通りです。「宇宙哲學の定義」「緒言——真理とは何か」「すばらしい知覚作用」「知覚と概念」「意識とは何か」「肉体、心、意識」「醒在意識と潜在意識」「人間は四つの感覚器官をもつ存在」「進化の道」「信仰」「生まれかわること」「感情のバランス」「自由意志か自己暗示か」「弛緩」「宇宙の言語」「化身的な宇宙」「古代の知恵が現代の進化か」「過去の文明」「リンゴの木の話」「結語」「練習法」——以上。なお、この書とテキストとして自己訓練をする方法をハニー氏が別紙パンフレットに述べています。巻末にも練習法が付けています。

◎ この書は先に出された「精神感応」の続編または補遺ともいふべきものですが、通読して気付いたことは「テレパシー」なる語が全然出て

こなしということですが、いや、一度だけ見当りましたが、それは古代のレムリアの文明を説いた個所に「メンタル・テレパシーの能力をもった当時の住民はエタ」とあるだけです。大体近頃のアダムスキの情報類は殆ど「テレパシー」なる語を使用していません。この理由は次の通りです。すなわち、彼がテレパシー現象とその理論について發表して以来、この語を知った大半の人が誤った考え方をして、テレパシーなるものをただ「電波を用いぬ」で遠隔地の人と通信する術」または「互やかに他人の心を見抜く術」あるいは「宇宙人がメッセージを正確に伝える術」などといった便利重宝の上ない一種の魔術的な異常能力を考えてやたらにその神秘性、不可思議性のみにあこがれるのあまり、かんじんの現実の足元を忘れてしまつた傾向が起つたことと、もう一つは或る種の低級な心靈實驗を行つた人たちが自らテレパシーを駆使していると思ひ込んで、眞実のテレパシーの意義を混同させたことなどにより、アダムスキはこれを警告して「人は並はずれた異常能力があるからといって必ずしも人間の価値判断の基準にはならない」と言っています。ただレ至言というべきでしょう。

◎ 次号から「宇宙哲學」の全訳を連載します。田盤問題は今や全く興味本位の対象たるべき時勢でなくなつてしまつた。眞実のテレパシーの能力を發揮して、迫り来る大地の激変の波動または印象を感じ得るようになるに於ては、たいものですよ。

日本G.A.P. ニコズレター オ5号	
編集発行人	久保田ハ郎
発行所	島根県松江市益田吉川五九三
	日本G.A.P.
昭和七年三月十日発行	頒価五〇円